【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】平成22年2月25日(2010.2.25)

【公開番号】特開2009-103654(P2009-103654A)
【公開日】平成21年5月14日(2009.5.14)
【年通号数】公開・登録公報2009-019
【出願番号】特願2007-277771(P2007-277771)
【国際特許分類】
Ｇ０１Ｊ　1/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０１Ｊ　1/02　F

【手続補正書】
【提出日】平成22年1月6日(2010.1.6)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２７】
一方、照明窓４は、自己吸収を測定するために使用される補正光源９からの光束を半球部１の内面に向けて照射するための開口である。照明窓４は、光源窓２から所定距離だけ離れた位置に形成される。なお、補正光源９からの光束の被測定光源ＯＢＪの発光面への直接的な入射を可能な限り抑制することが好ましい。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２９】
半球部１の内部の照度は、半球部１またはミラー部３のいずれかに形成された観測窓６を通じて受光部７によって検出される。図２に示す構成では、代表的に、照明窓４から離れた半球部１の内面に観測窓６が形成される。これは、補正光源９からの補正光束源が受光部７に直接的に入射することを抑制するためである。代替的に、ミラー部３に観測窓６を形成してもよい。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７０】
そして、光源窓２に校正用ミラー１２が装着されており、かつ補正光源９Ａのみが発光状態である場合において、補正光源９Ａからの補正光束（標準光束φ_0）による照度に応じて受光部７から出力される出力値をi_0とし、光源窓２に被測定光源ＯＢＪが装着されており、かつ被測定光源ＯＢＪのみが発光状態である場合において、受光部７から出力される出力値をi_dとすると、被測定光源ＯＢＪの全光束φは、以下のようになる。